

A-167 福山市における栄養摂取状況等に関する意識と実態 (第15報)

——家族の生活基盤と健康状態との関連性(分析①)——

福山市立女短大 ○倉田美恵 奥山清美 加納三千子 津川淳  
三谷璋子 工屋房江 鈴木雅子

目的 (第10報に同じ)

方法 家族の生活基盤と健康状態(全身的症状, 部分的症状, 既応症)の間における関連性について検討した。

結果 1) 全身的症状のうち食欲不振, めまい, 不眠に関しては, 生活基盤の違いによりタイプ別の特徴的なパターンを示した。即ち, (自) - (高) - (共) と (不) - (大) - (無) が訴えが低く, (ブ) - (高) - (無) が高かった。また (ブ) - (共) と (ブ) - (大) では学歴による差がみられ, (中) の方が訴えが高く, 特に頭痛などは, (ブ) - (中) - (大) に高い傾向がみられた。2) 部分的症状(目, 鼻, のど)では, 学歴による差が表れており, (中) における健康上の訴えは, (ブ) - (中) - (大) に前と同様高い傾向がみられた。3) 生活基盤の階層の属性によると, (ブ) - (高) - (無) は低収入のものが多く, 年齢は20代が極めて多かった。次に, (ブ) - (中) - (大) の特徴は, 低収入が多く, 年齢も30代, 40代が多かった。4) 既応症では, 現在の病気罹患率が少ない為, 既応歴で比較した。その結果, 胃腸病が最も高く, 次いで婦人病, 肝臓病の順に低くなっており, 概して (ブ) - (中), (不) - (大) - (無) に罹患率が高かった。5) 次に前報により, 健康状態を得点化したタイプとの関連性を検討した。健康状態は, 高学歴程, 良好であり, 母親の就労状況別では (ブ) - (中) と (ブ) - (高) で異なるパターンを示した。属性分析では, (ブ) - (高) - (大) は特に30代以上の年める割合が高かった。